



いきいき

小富士っ子



R 4 学校便り No.23

令和4.12.21

四国中央市立

小富士小学校

人権のつどい（11月27日）に参加して

11月27日に四国中央市人権のつどいが開催されました。

講演会は「私たちは「部落差別」にどのように向き合っていくか～一緒に考えると言うこと～」と題して、大阪のとよな国際交流協会職員の三木さんの講演でした。

三木さんの母親は、いわゆる被差別部落に住んでおり、外国籍の方でもありました。母親の「私がママだから、ごめんね」という言葉。母親にそう思わせてしまう。決して三木さんが悪いわけではありません。そうさせている、そう思わせてしまっているところに差別の現実があるのです。悪いのは差別する人です。差別を残している人です。生きていくのにいっばいで日本語を学ぶ機会もなく、様々な理由から戸籍を取得しない道を選ばざるを得ない現実。その中で、今のパートナーさんとの出会い。「『気にしない』と言ってくれるからカミングアウトできるのではない。一緒に考えてくれる、一緒に考えたいからカミングアウトできる。」差別解消に向けて一緒になって取り組んでいけるようこれからも研鑽を積まなければと痛感させられました。参加した教職員の感想を紹介します。



「寝た子を起こすな、というのは、意識して目を瞑るということである。目を開けた時には、差別が残っている社会が広がっている。」という言葉聞き、「寝た子を起こすな」ということについて、理解が深まりました。

次に、マイクロアグレッション（気が付かないほど日常にありふれた攻撃性のある言動）では、自分に悪気がなくても傷つけてしまうことがあります。思い合って会話をするためには、相手を知る、知ろうとする気持ちが第一であることを感じました。そして、自分が大変なことはほかにも大変だと思っている人がいることを考え、私たちが楽しく暮らせるためには、社会にどう働きかけていくことができるか考えることが大切だと学びました。

講演の中で、当時お付き合いしていた今のパートナーの方に被差別部落の出身だということを告白した時のこととお話しされていました。今までは「気にしないよ」「今まで辛かったね」と言われていた中で「これから一緒に考えていこう。一緒に考えよう」と言ってくれたとありました。「これから一緒にしていこう」と言ってくれる。大切な人が一緒になって考えてくれる、というのは何よりも心強いものなのだと感じました。大切な人が自分を信じて告白してくれたとき、しっかりと受けとめて「一緒にやっていこう」と伝えられる人間になりたいです。

今、パートナーとなった彼に「部落と言われる地域」で生まれ育ったことをカミングアウトしたときに、その彼がこう言ったそうです。「そうなん。もっと早く言ってくれたらよかったのに。これから、一緒に考えていこうな。いろいろなことがあるから、そのときに言ってくれたら、一緒に考えるから。」と。そう言ってもらったとき、自分の中にパワーがみなぎってきたそうです。何倍もの力が湧いてきたそうです。今までは、カミングアウトしたら、「よう言ってくれたな。」「今まで辛かったらうな。」とか、自分を受け止めてくれることが多かったそうです。そうではなくて、その彼は、一緒になって歩いてくれるということ伝えてくれたので、自分の力が何倍も増したような気になったと言っていました。私もその人が持っている力を何倍も引き出せるような人になりたいなと思いました。

